



農大だより

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第17号

香川県立農業大学校

〒766-0004

仲多度郡琴平町榎井34-3

TEL 0877-75-1141

FAX 0877-75-3989

E-mail:nodai@pref.kagawa.lg.jp

- 専攻実習の取り組み □活躍する卒業生 □頑張る修了生 □校外講師の授業風景
□農業経営力養成講座に参加して □同窓会だより □農大ふれあい市

専攻実習の取り組み

取り組み始めた卒業論文

野菜園芸コース 清田 哲也

野菜園芸コースの二年生は農大、農業試験場、農家に分かれて専攻実習を行います。

私は学校で四月からナス、キヤベツ、ブロッコリー等の野菜の栽培作業の実習を行ってきたが、秋から本格的に卒業論文の試験を始めました。取り組んでいる課題は「ブロッコリー早期畝立マルチ栽培における追肥方法」です。家庭でもブロッコリーを栽培していますが、定植が天候に左右されて計画的に進まず困っていますので、試験で得た成果や経験を家庭での栽培に生かしたいと思います。



試験には先輩方の早期畝立ての成績を参考にしてマルチ栽培

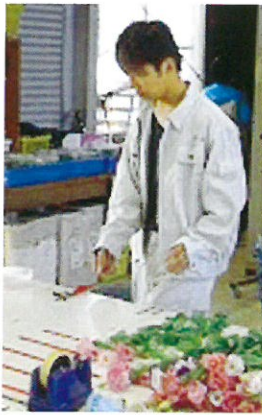
の追肥方法を検討しています。これからデータを取りながら、より良い卒業論文を完成させたいと思います。

ただ今、調査継続中

花き園芸コース 景山 敬介

私達二年生は、校内で専攻実習を行っています。切花や鉢花など、色々な花きの栽培管理を通して花きに関する知識や技術を学んでいます。

特に、午前中の切花の収穫、調整、出荷作業は、人数が少ないこともあり、忙しい日々が続くこともあります。



専攻実習では、「ヒマワリの良品生産技術の検討」を卒業論文の課題に取り上げ、栽植密度や灌水方法の違いによる品質への影響について調査を行っています。今後は、調査データを取りまとめ、卒業論文の作成に取り

り組みます。今回の試験で得られた結果が、ヒマワリ栽培をする上で参考になればと思います。専攻実習に取り組んで半年余りが過ぎますが、今後は、もっと作業経験を積むとともに人間関係も含めた社会性も身に付けていきたいと思っています。

卒業後も見据えて

果樹園芸コース 内海 良範

私は農大でモモの専攻実習を行っています。モモは、さぬき讚フルーツとして扱われるなど、伸びている品目です。しかし、我が家のモモは農大のモモに比べて劣り、収量も少なくなっています。そこで、私は摘果の時期と摘果量の違いがモモの品質や肥大に与える影響を調査しました。

四月三日の満開日から調査を開始し、温度や天気なども調べました。今年は四、五月が少雨で、六、七月が多雨になったため、家と農大、両方のモモに悪影響がありました。特に晩生の主力である「なつおとめ」は数も品質も納得のいく物ではなく、

残念でなりません。



モモの調査は終わりましたが、これから施肥に剪定にと、まだまだ作業は続きます。そして卒業後の就農も迫っています。まだまだ調査したいことや勉強したいことがあり、時間が足りませんが、残りの時間でしっかりと勉強に励みたいのです。

ふれあい市で観てください

造園緑化コース 堀家 麻衣

私はポタジェ式花壇の作成に取り組んでいます。ポタジェ式とは少量の野菜などの食べられるものを取り入れた花壇です。

自分で一から設計して図面を書き、現在は花壇のレンガ積みをしています。このレンガは学校の古い庭に使われていたものを再利用して表面を割り直したものを使用することにより、経費をおさえています。施工では

基礎コンクリートを作ったり、レンガを水平になるように積んだり、今まで経験したことがないことばかりですが、同僚の仲間たちに助けてもらいながら頑張っています。



また、花壇に植える花も、秋のふれあい市が見頃となるように考えながら種から育てています。造園のみんなだけでなく、野菜や花きコースの先生や学生の方々にも協力していただきながら、完成後にたくさんの人に観てもらえるのを励みにこれからも頑張りたいと思います。

畜産試験場で実習中

畜産コース 児島 龍之介

私は専攻実習を畜産試験場で行っています。試験場は様々な道具や設備が整っており、日々いろいろな試験や調査を行っています。牛、豚、鶏を飼育して

いるのですが、私は牛部門で実習をしています。牛部門での主な作業は、搾乳、エサやり、床替え、育成牛の身体測定などです。実習中は試験場の先生方が親身になって指導していただき、私にとっては最高の環境です。

今後は卒業論文を作成するため、先生方と計画を立てていきたいと思っています。実習期間も残り少なくなってきたので、いつも以上に頑張っていきたいと思っています。



活躍する卒業生

国重 亜紀子さん (普通寺市)

国重さんは平成八年に農大を卒業され、現在、父親が経営する農業生産法人(有)キウイバードコーポレーションの経営者の一員として活躍されています。

学生時代にスポーツ大会や八ヶ岳キャンプ等の行事に参加したり、二学年で学生自治会の会長を務めさせてもらった経験は自分が成長するうえで良かったそうです。



卒業後は、専攻実習のテーマで取り上げた「香粋」を経営の柱にするために生産と販売に苦勞することもあったそうですが、お客様から「美味しかった」「今までこんな食べたことなかった」のお礼や激励の言葉を頂くと頑張ってきて良かったと思うそうです。

在校生の皆さん、二年間を大いに学んで、大いに楽しみ、一生の宝にしてほしいとアドバイスをいただきました。

頑張る修了生

長野 毅之さん (まんのう町)

まんのう町で平成二六年四月



に就農した長野毅之さんを紹介
します。
長野さんは平成二五年度の本校
校研修科就農実践研修野菜コー
スの修了生で、一年間野菜栽培
の研修を受講しました。第二の
人生設計で農業を選択していた
こともあり、長年勤めた役所を
早期退職したそうです。
農大での研修修了後は、白ネ
ギ一〇アール、レタス・ニンニ
ク各九アールを中心にオクラ、
シユンギク、タマネギなどを栽
培していますが、近々、天候に
左右されず計画的な出荷が見込
めるミニトマトの施設栽培を経
営の中心にと計画しています。
農作業は基本一人で従事してい
るため、JAの出荷調整支援を
計画的に活用するなど、効率的
な作業を心掛けています。
認定就農者の認定も受け、生
産部会への加入や農業者との積
極的な交流や視野を広げるため、

中讃地区農業後継者クラブにも
加入しています。農業後継者ク
ラブ主催の研修会や、トウモロ
コシの収穫や金時ニンジンの定
植など、小学生対象の農業体験
支援にも積極的に参加していま
す。
農業の基本を大切に取り組ん
でいる長野さんの今後益々の御
活躍を期待しています。

校外講師の 授業風景

四国学院大学名誉教授

高橋 道彦 先生

学生の特質は実におおらかで
ある。一年生は授業中の私語も
なく、将に厳肅端正を想記する
光景であります。しかし、大学
にも慣れてクーラーの効いた7
月の教室では、少しずつ居眠り
が。私が講義をしている「育
種」は統計が伴うので、目覚ま
しのために平均の計算をさせて
みる。すると、 Σ やnを用いた
公式は答えられなくても、暗算
して即答できる計算能力を持っ
ている。命題に対して公式も含

めた完璧な応答はできなくても、
グローバルには何か分かってい
る。本学学生は他大学に見られ
ない、隠れた潜在能力を持つ学
生とボーデンがある。



ドイツ語で農業をボーデンピ
ツセンシャフト(基本の科学)
と言うことがある。本学学生に
は、ボーデン(基本や大地と言
った意味がある)を大切に、
ビツセンシャフト(科学)の視
点で未来に向かって取り組んで
ほしい。

農業経営力講座に 参加して

①東京セミナー

野菜園芸コース 今田 雅人

同じ二学年の内海良範さんと
二名で参加しました。
研修では、農業の基本的なこ

とから私の考えを一新するよう
なことまで、様々な知識を数多
く学ぶことができ、たいへん貴
重な経験となりました。大規模
農業者の講義やグループワーク
では、新規就農を目指す私が、
今からどのように取り組むべき
かを考えさせられました。
また、生産から販売まで広く
携わる農業に変えていくために
必要なこと、さらに消費者ニー
ズをふまえたマーケティングも
教わりました。

特に印象に残っていることは、
「目的」や「強み」をはっきり意
識することで
す。どの講師
からも「なぜ
農業に取り組
んでいるかが
ブレることの
ないように」
との話があり
ました。今一
度、自分が歩
む道を再確認
し、農業に従
事していきたく
いと思いを固
めています。



② 四国セミナー

野菜園芸コース 濱口 昌志

徳島県で開催されたセミナーに五名で参加しました。

これから就農する人の参考になるよう、全国各地で農業を実践している若



手農業経営者の実像に迫り、多様な農業経営の実態を知るためのセミナーですが、講師の人たちが日本の最先端に行く農業経営者ではなく、我々若者の数歩先を行く、手に届く先輩たちだったので親しみを感じました。

「農食連携のマーケティングを知る」では、SWOT分析・STP・4P戦略を駆使して今、自分が栽培可能な農作物の置かれている状況をよく判断し、消費者の需要を知り、売るための戦略を立てなければ、いくら良

い農作物を作っても売れないことがよくわかりました。

このような講座を通じて、自分自身がどのような農業を志したいかと自問自答する良いきっかけになりました。

同窓会だより

仲多度地区副支部長

森井 幹夫 氏

私の家は専業農家でした。長男が外で就職していたので、次男の私が農業を継ごうという思いで、農業大学校に昭和五七年に入学しました。

農大時代を振り返ると、農業の基本を学び、実習をすればするほど、「自分に合っているのか」という不安が増えたことが思い出されますが、今考えると、自分に自信がなかったのと、判断力の欠如に尽きると思います。しかし、悩んだだけではなく、充実した二年でした。特に忘れられないのは部活動のバスケットボールです。農業大学校学生連盟スポーツ大会の四国大会で

優勝し、全国大会でも優勝する偉業を達成しました。この時のメンバーとの出会いに感謝すると同時に、互いの信頼関係や協調性の大切さを学ばせてもらいました。



卒業後は両親が農業現役でしたので、農協の営農指導・販売業務に就きました。特産品作りにも関わり、振り返ればあつという間の三〇年でした。現在は水稲「おいでまい」と小麦「さぬきの夢二〇〇九」の種子栽培に加え、ニンニク等を家内と栽培している他、地元の有志一〇名と農事組合法人を立ち上げ、そのメンバーとして頑張っています。

私の亡き母は「農業は人の命を繋ぐ仕事」と言っていました。この言葉を農大生に贈ります。

胸を張って、「私は農業をしています。」と言える人が増えることを期待します。

農大ふれあい市

本校の学生自治会が、恒例の「農大ふれあい市」を次のとおり開催します。

本年も学生が頑張って趣向を凝らした企画を用意しており、ますので、皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しください。

・開催日時

十一月七日(土)

午前一〇時三〇分～午後二時

・内容(予定)

野菜、果物等の販売

苗物、鉢物、堆肥等販売

・オープンキャンパス

来年度、入学を希望される方や保護者の方で校内見学を希望される方は事前に連絡の上、受付までお越しください。

・お願い

本校の駐車場は、数に限りがございます。できる限り公共交通機関をご利用ください。